

「今求められる道徳教育と道徳教育推進教師の役割」

令和元年11月5日（火）

県立総合教育センター教育課程担当

指導主事兼所員 原 卓範

0 はじめに

1 道徳の教科化の背景

(1) 深刻ないじめの問題解決

(2) 子供たちが生きる未来

(3) 量的確保と質的充実

2 道徳教育推進教師の役割

3 道徳科の授業

(1) 道徳科の授業づくりで大切にしたい3つのこと

①道徳科の目標の理解

②教師の道徳的価値観の明確化 ～考えさせたいこと、伝えたいことは何か～

指導観（教師の道徳的価値観、児童生徒観、教材観）の中の、特に教師の道徳的価値観を明確にすることが大切である。それは、「伝え方の工夫の前に、伝えたいことは何か」「考えさせ方の工夫の前に、考えさせたいことは何か」を明確にするために大切なことである。

③全ての手立てに意図をもつ

(2) 道徳科の評価

(3) 埼玉県教育課程指導実践事例

4 学校全体で取り組む道徳教育の充実（内容と方法）

(1) 校長の方針と道徳教育の重点目標（重点内容項目）の明確化

(2) 取組の内容（例）

(3) 諸計画の作成と活用

(4) 取組を実現するための方法（いつ、どこで、誰が、何をすれば組織が動くのか）

5 授業を積み重ねた生徒の声

6 終わりに

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center

令和元年度東部地区道徳教育研究協議会
令和元年11月5日（火）

今求められる道徳教育と 道徳教育推進教師の役割



埼玉県のマスコット
コバトン

県立総合教育センター
教育課程担当指導主事
原 卓範

「内 容」(小学校)

A 主として自分自身に関すること
【善悪の判断、自律、自由と責任】【正直、誠実】【節度、節制】
【個性の伸長】【希望と勇気、努力と強い意志】【真理の探究】

B 主として人との関わりに関すること
【親切、思いやり】【感謝】【礼儀】【友情、信頼】【相互理解、寛容】

C 主として集団や社会との関わりに関すること
【規則の尊重】【公正、公平、社会正義】【勤労、公共の精神】
【家族愛、家庭生活の充実】【よりよい学校生活、集団生活の充実】
【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】【国際理解、国際親善】

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
【生命の尊さ】【自然愛護】【感動、畏敬の念】【よりよく生きる喜び】

「内 容」(中学校)

A 主として自分自身に関すること
【自主、自律、自由と責任】【節度、節制】【向上心、個性の伸長】
【希望と勇気、克己と強い意志】【真理の探究、創造】

B 主として人との関わりに関すること
【思いやり、感謝】【礼儀】【友情、信頼】【相互理解、寛容】

C 主として集団や社会との関わりに関すること
【遵法精神、公德心】【公正、公平、社会正義】
【社会参画、公共の精神】【勤労】
【家族愛、家庭生活の充実】【よりよい学校生活、集団生活の充実】
【郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】
【我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度】【国際理解、国際貢献】

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
【生命の尊さ】【自然愛護】【感動、畏敬の念】【よりよく生きる喜び】

69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center

1 道徳の教科化の背景



69 埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center

道徳の教科化の背景

深刻ないじめの本質的な問題解決

決まった正解のない予測困難な時代

- グローバル化、情報化の急速な進展
- 科学技術の進化と新たな問題
(人口知能、生命倫理・・・)
- 社会全体の持続可能な発展
(環境問題、超少子高齢化社会・・・)

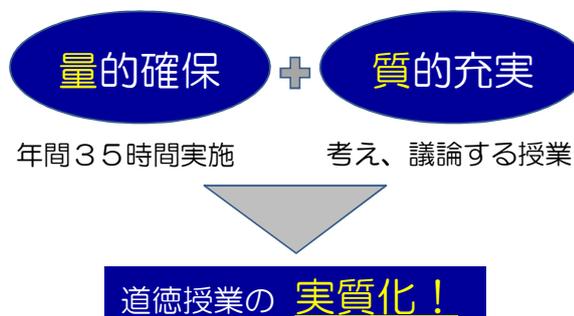
道徳の教科化の背景

自らの人生や社会における**答えが定まってい**
ない問いを受け止め、多様な他者と議論を重ねて
探究し、「**納得解**」を得るための資質・能力

道徳教育の課題

- 歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを**忌避**しがちな風潮がある。
- 道徳教育の目指す理念が**共有**されていない。
- 教員の**指導力**が十分ではなく、道徳の時間に何を学んだかが印象に残るものになっていない。
- 他教科に比べ**軽んじ**られ、道徳の時間が、実際には他の教科に振り替えられていることがあるのではないか。

道徳の教科化の背景



「道徳教育」と「特別の教科 道徳(道徳科)」

道徳教育 : 学校の**教育活動全体**で行うもの

道徳科 : 道徳教育の**要**の時間

「特別の教科」である理由

教科との**共通点**と**相違点**がある。

共通点 : 学習指導要領の内容を体系的に学ぶ

相違点 : 学級担任が担当することが望ましい
数値による評価はなじまない

教科は専門分化したもの
道徳は統合的なもの

変わること

- ・教科用図書を主たる教材として使用すること
- ・道徳科の授業で児童生徒を評価すること

変わらないこと

- ・道徳教育は、全教育活動を通じて行うこと
- ・道徳教育のかなめとして道徳科の授業を年間35時間行うこと
- ・道徳教育及び道徳科では、道徳性を養うことを目標としていくこと

求められていること

- ・教育の目標(教育基本法)
豊かな情操と道徳心(豊かな心)を培う
- ・これからの時代に必要な資質・能力の育成
知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養
- ・教育課題への対応
いじめ問題、情報モラル、ESDなどへの対応
- ・道徳科の授業の量的確保
年間35時間以上実施して、評価する
- ・道徳科の授業の質的転換
「主体的・対話的で深い学び」(考え、議論する道徳)

2 道徳教育推進教師の役割



道徳教育推進教師の位置付け

学習指導要領 (H29) では

1 各学校においては、第1の2の(2)に示す道徳教育の目標を踏まえ、道徳教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「**道徳教育推進教師**」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開すること。

小(中) 学習指導要領解説総則編 P128 (P131)

道徳教育推進教師の役割

学校における道徳教育

校長の方針

道徳教育推進教師

全教師

教育活動全体を通じて、道徳教育を推進する上で
の中心となる

参画・分担・協力のもと

小(中) 学習指導要領解説総則編 P128 (P131)

道徳教育推進教師の役割

- ・道徳教育の**指導計画**の作成に関すること
- ・全教育活動における**道徳教育**の推進、充実に関すること
- ・**道徳科の充実と指導体制**に関すること
- ・**道徳用教材**の整備・充実・活用に関すること
- ・道徳科の授業の公開など**家庭や地域社会との連携**に関すること
- ・道徳教育の**研修の充実**に関すること
- ・道徳教育における**評価**に関すること など

小(中) 学習指導要領解説総則編 P128 (P131)

3 道徳科の授業



道徳教育の目標

- ・道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる**道徳性**を養うことを目標とする。

「特別の教科 道徳」(道徳科)の目標

•第I章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きる基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

資質・能力

学習活動

「資質・能力」と「学習活動」

★「資質・能力」と「学習活動」は、道徳科の目標に示されている。

- 「**資質・能力**」
道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）
- 「**学習活動**」
(1)道徳的諸価値について理解する
(2)自己を見つめる
(3)物事を広い視野から多面的・多角的に考える
(4)人間としての生き方についての考えを深める

教師の道徳的価値観の明確化

【指導観の明確化】が大切！

- (1)教師の道徳的価値観 ★★
学習指導要領を踏まえたねらいとする道徳的価値についての教師の捉え方
- (2)児童生徒観
ねらいとする道徳的価値に関する児童生徒のこれまでの学習状況、実態、教師の願い
- (3)教材観
使用する教材の特質や具体的な活用方法

教師の道徳的価値観の明確化

「〇〇」とは・・・。
「思いやり」とは・・・。「親切」とは・・・。
「礼儀」とは・・・。「誠実」とは・・・。

「なぜ」大切なのか
「何」が大切なのかは子供たちも知っている。
「なぜ」大切なのか。
そこに、子供たちに考えさせたいこと、伝えたいこと、具体的なねらいとなるものがあるのではないか。

教師の道徳的価値観の明確化

ねらいは、
【A】この時間に何を中心に考えさせ、（主な学習活動）
【B】どのような道徳的価値に迫り、（本時の具体的な学び）
【C】どのような道徳性を育成するのか（道徳性の諸様相）
を明確にして記述する。

ねらい(例)
今まで学級の児童が考えてきた「親切」と、そと後ろをつついていく「ぼく」の行為を比較する活動を通して、「**見守ったり、励ましたりする親切もある**」ということに**気付**き、相手のことをより深く考えた親切を行おうとする態度を育てる。

小学校教育課程指導実践事例（道徳）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/kyouikukatei/doutoukujissenjirei.html>

埼玉県立高等学校 道徳科 実践事例

【事例1】第2学年 内容項目：A 個性の成長

- ・自分の関わりからつくる信頼関係
- ・児童自身との関わりを深め、思考を引き出す授業
- ・メンバー同士に自分の関わりで考えを伝えたりし、2
- ・横断的な伝書

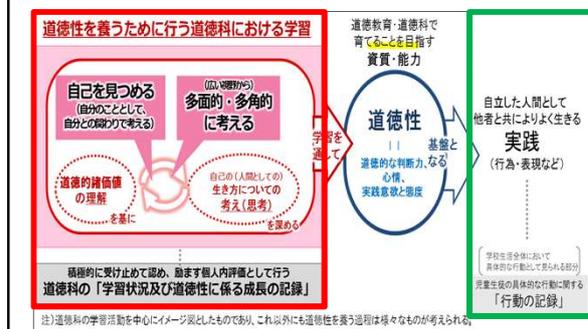
【事例2】第6学年 内容項目：A 真実の探究

- ・教材への関心を高める導入
- ・教材の登場人物に自分関与させる展開
- ・「自分も主人公、多様な考えを自分視点での探求
- ・道徳的価値の探究～登場人物の考えを深める展開
- ・本時の学びを共有する意見交流
- ・日本の生活と登場人物の生き方を重ね合わせる展開
- ・登場人物に託した言葉の探究（授業をとおしての学び）

全8事例

- 【事例1】第2学年 A 個性の伸長(PDF:471KB)
 主題名 自分のよいところ
 教材名 「どうして うまいかないのかな」(出典:どうとく2「きみがいちばんひかるとき」光村図書)
- 【事例2】第6学年 A 真理の探究(PDF:326KB)
 主題名 新しいことを求めて
 教材名 まんがに命を〜手塚治虫 日本のテレビアニメの生みの親〜(出典:「新しい道徳 6」東京書籍)
- 【事例3】第5学年 B 友情、信頼(PDF:633KB)
 主題名 たがいに信頼し、学び合って
 教材名 「知らない間の出来事」(出典:「私たちの道徳 小学校5・6年」文科省)
- 【事例4】第6学年 B 相互理解、寛容(PDF:861KB)
 主題名 広く受け入れる心
 教材名 「プランコ乗りとピエロ」(出典:「生きる力 6」日本文芸出版)
- 【事例5】第4学年 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 (PDF:710KB)
 主題名 伝統と文化を受け継ぐ人たちの思い
 教材名 「キラキラ光るあめ玉ー川越菓子屋横丁ー」(出典:「彩の国のどうとく」(中学年)「みんななかよし」県教委)
- 【事例6】第1学年 C 国際理解、国際観賞 (PDF:1,166KB)
 主題名 ことがつうじなくても
 教材名 「どなのジエニーちゃん」(出典:「みんなのどうとく1ねん」学研)
- 【事例7】第3学年 D 生命の尊厳 (PDF:960KB)
 主題名 命の大切を考えよう
 教材名 「家族のアルバム」(出典:「彩の国の道徳」3、4年「みんななかよし」)
- 【事例8】第6学年 D よりよく生きる喜び (PDF:730KB)
 主題名 気高い心
 教材名 「青の洞門」(出典:「みんなの道徳6年」学研)

道徳科の評価



道徳科の評価

【評価の文例】

授業で扱う内容を常に自分のこととして捉え、考えていました。例えば「〇〇(教材)」を活用した授業では、主人公に共感しながらも、誠実に生きる意味について考え、発信していました。

道徳科の評価

【アイデア等】

- ①学校としての作戦をもつ
- ②オンリーワン評価
- ③道徳科の授業におけるよいところ探し
- ④学期の振り返り

4 学校全体で取り組む道徳教育の充実



自校の道徳教育の課題をチェック

- 全教育活動を通じて行う道徳教育での指導が
できているか？
- 週1回の道徳科の授業が確実に行われ、機能
しているか？
- 子供たちのよさを認め、励ます評価ができて
いるか？

道徳教育が充実しない背景として考えられること

教育活動全体で行う道徳教育は、何を指して行うか(目標設定)は、学校が独自に考える必要がある。

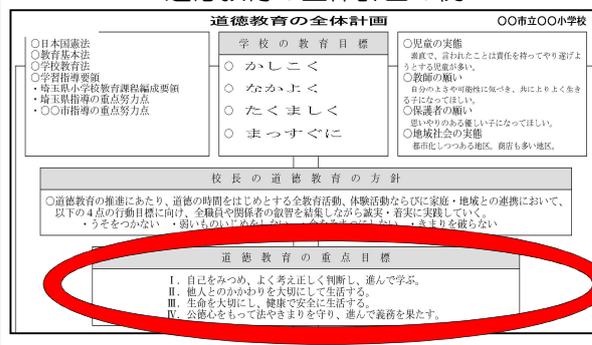
道徳教育の目標に向けて、どの内容を重点的に行うのか(重点内容項目)を、学校が独自で決めなければならない。

重点内容項目を指導する機会や時期などその計画を学校が独自で作成しなければならない。

道徳科の授業の年間35単位時間にどのような内容を充てて指導するのかを学校が独自で決めなければならない。

校長の方針と道徳教育の重点目標

道徳教育の全体計画の例



校長の方針と道徳教育の重点目標

【重点目標】 【重点内容項目】 を絞って焦点化する。

取組の内容(例)

- 【アイデア等】
- ①学校行事の提案に道徳教育のねらいも位置付ける
- ②道徳教育推進状況調査から

取組の内容(例)

- ・毎月又は学期ごとに実施時数をチェック
- ・週案簿による指導計画作成と授業実施記録を作成
- ・道徳部会で実践状況を把握
- ・各学年の主題配列一覧表を配付し点検(月ごと)
- ・手元に年間指導計画を置き常に把握しながら進める
- ・年間計画を夏季休業中に見直し、学年ごとに修正
- ・道徳の時間を月曜以外の日の午前中に組む
- ・月曜日と1校時に道徳を入れない
- ・行事や休みと重なった場合、時間割変更で時数確保
- ・行事等で未実施の場合、その週の内に振り替え
- ・予定を週報に載せ、確実に実施
- ・学期、月、週ごとに計画表を作成
- ・学校評価に道徳教育の項を設けて見直しを実施
- ・年間指導計画に反省、改善のための記入欄挿入
- ・分掌部会で検討し、改善 等

取組の内容(例)

- ・道徳朝会の実施(校長講話 私たちの道徳、彩の国の道徳等)
- ・体験活動を全校で計画して実施(教務主任が窓口で)
- ・毎月の指導内容をプリントで職員に配布
- ・管理職の教室訪問
- ・全学級授業研究会実施
- ・学校公開日で全校一斉に道徳の授業公開
- ・年間1回は授業研究を行い、指導方法の改善
- ・学年・学級通信による学習予定の周知
- ・資料を作成するとともに、教材等の共有化を図る
- ・学年会(学年研修)で次週実施予定の教材を確認
- ・各学年の道徳部員が実施状況を確認
- ・毎月学年会で指導計画を確認し完全実施に努力
- ・教科等部会を開き、学年相互に授業の実施状況を確認するとともに、改善や修正を全体のものとし共通理解を図る
- ・教科部会で具体的な計画を立て、それに沿った授業を行う
- ・学期に2回の道徳部会をもち、実施状況の確認や問題点の把握 等

諸計画の作成と活用

- ①作成上の課題
- ②活用上の課題
- ③解決策 + α

取組を実現するための方法

いつ、どこで、誰が、何を



なぜ、どのように



組織が動く、しくみができる

5 授業を積み重ねた生徒の声



生徒の声 1

こんなこと書いたな、こんなこと書いてもらったな、と度々思う。

たまに心に響かない話もあるけど去年と行動が変わった部分もあったと思う。

生徒の声 2

自分の気持ちを書いてあるので、その時どう思っていたかよく知れて、書いたのは自分なのに、何だか人のを見ているようにおもしろい。

あと、1回1回の先生のコメントも好き。

気持ちって大事。

生徒の声 3

自分ではあんまり頭に入っていないと思ってたけど、振り返ってみると意外に覚えていて、知らないうちに印象に残っているんだなと思った。

生徒の声 4

意外に授業に取り組んでいる自分がいて、とてもびっくりだった。

ちゃんと自分が感じたことを書いて、まじめだった。

生徒の声 5

この時の自分はこんなことを考えていたのかとか、今ではもっとよい考えが出たりだとか、その時の内容で、自分の心の変化を感じられて、とてもおもしろい。

自分とは違う意見の友達と共感できる時とできない時があって、本当に人によって考えていることがバラバラなんだなと思った。

生徒の声 6

最初のころは、あまり関心をもてなかったから感想とか少なかったけど、今では自分の意見もしっかりまとめられていてよかった。

生徒の声 7

過去の自分が書いたことに見入ってしまう。

生徒の声 8

道徳の授業の前はあまり考えていなかったことを、道徳の授業を受けてからは考えることが多かったなと思いました。

私にとってよい時間だと思いました。

おわりに

ご清聴ありがとうございました。

【参考資料①】

年次研修、特定研修、専門研修、要請研修 等で使用しているスライドから

これまでの道徳の授業の課題

- ✕ 登場人物の心情理解のみに偏った指導
(読み物道徳・読み取り道徳)
- ✕ 主題やねらいの設定が不十分な単なる生活体験の話合いの指導
- ✕ 望ましいと分かっていることを言わせたりすることに終始する指導(押し付け道徳)

主体的・対話的で深い学び

主体的な学び 対話的な学び 深い学び

児童生徒が
真剣に考えること

児童生徒が
共に語り合うこと

教師が明確な
指導観をもつ
こと

道徳科における
「主体的・対話的で深い学び」

考え、議論する道徳



考え、議論する道徳

考え、議論する道徳

考える
主体的に
自分との関わりで

多様な感じ方、
考え方と出会い
交流する

自分の感じ方、考え方を
明確にする

自分の感じ方、考え方を
より明確にする

深い学びの鍵となる「見方・考え方」

多様な事象を、道徳的諸価値の理解を
基に自己との関わりで多面的・多角的に
捉え、自己の生き方について考えること

中央教育審議会(答申)H28.12.21

道徳科の目標の学習活動と同じであると言える

道徳科の目標の理解が大切!

質の高い多様な指導方法

「特別の教科道徳」の指導方法・評価等について(報告)
(道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)

- ① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
- ② 問題解決的な学習
- ③ 道徳的行為に関する体験的な学習

これらは多様な指導方法の一例であり、
それぞれが独立した指導の「型」を示している
わけではない。





【参考資料②】

道徳科の評価の研修で使用しているスライドから

この評価の文例 ○ × ?

- ① 転んでしまった友達に「大丈夫？」と声をかけるなど、親切な行為がたくさんみられるようになりました。
- ② 以前に比べて、友情を大切にはぐくむための判断力が育ってきています。
- ③ 「○○」の授業を通して、規則を守ることの真の意義を理解することができました。
- ④ 道徳の授業を通して、道徳的な心情が育ってきています。今後は、判断力や、実践していこうとする意欲も高めていけるとよいでしょう。

評価とは

- 児童生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくもの
- 教師の側から見れば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

「通知表」と「指導要録」

- 通知表: 公簿ではないが、多くの学校が作成しているもの
- 指導要録: 公簿であり、作成が義務付けられているもの

「道徳教育」と「特別の教科 道徳(道徳科)」

道徳教育 : 教育活動全体で行うもの

→ 評価はこれまでも行われてきた。
「行動の記録」に○印を記入 など

道徳科 : 道徳教育の要の時間

→ 「道徳科」に関する評価は、
特別の教科化により新たに設けられたもの

道徳教育の目標

- 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる**道徳性**を養うことを目標とする。

「特別の教科 道徳」(道徳科)の目標

- 第 I 章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きる基盤となる道徳性**を養うため、**道徳的諸価値**についての理解を基に、**自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習**を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度**を育てる。

資質・能力

学習活動

「特別の教科 道徳」(道徳科)の目標

- 「**資質・能力**」
道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）
- 「**学習活動**」
 - ①道徳的諸価値について理解する
 - ②自己を見つめる
 - ③物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える
 - ④自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

評価の基本的態度

- 道徳性の評価は行わない**

内面的資質である道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度：分節して観点別評価を通じて見取ろうとすることも妥当ではない。
道徳的価値の理解：どれだけ理解したかなどの基準を設定することはふさわしくない。

「特別の教科 道徳」(道徳科)の目標

- 「**資質・能力**」
道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）
- 「**学習活動**」
 - ①道徳的諸価値について理解する
 - ②自己を見つめる
 - ③物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える
 - ④自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

ここを評価するのではない

ここに着目し、児童生徒の取組状況を継続的に見取っていく。

何を評価するか

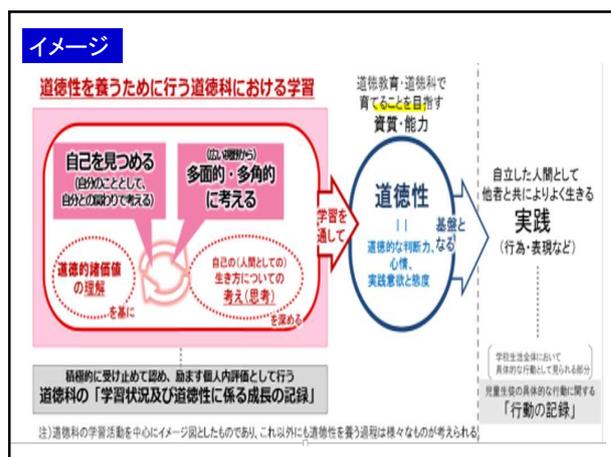
- ① **学習状況**や② **道徳性に係る成長の様子**を的確に把握し、評価する。

【重視する評価の視点】③

「より**多面的・多角的な見方**へと発展させている様子」
「道徳的価値についての理解を**自分との関わり**の中で深めている様子」④

道徳科の評価で大切なこと

- 学習活動に着目して、児童生徒の**学習状況**や**道徳性に係る成長の様子**を継続的に把握する。
- 数値による評価ではなく、**記述式**とする。
- 個々の内容項目ごとではなく、**大くくりなまとまり**を踏まえ評価する。
- **比較ではなく**、生徒が**いかに成長したか**、**認め励ます個人内評価**として行う。
- 道徳科は道徳性を養うことをねらって行うが、**道徳性は評価しない**。
- **学習障害等**のある生徒が抱える、学習上の困難さの状況等を踏まえ**適切な配慮**を行う。
- **調査書には記載しない**。
- 学年等で共通理解を図り、**組織的**に行う。



文例

- 授業で扱う内容を常に自分のこととして捉え、考えていました。例えば「〇〇(教材)」を活用した授業では、主人公に共感しながらも、誠実に生きる意味について考え、発信していました。
- 「〇〇(教材)」の学習では、以前「〇〇(教材)」でした学習を結びつけて、してあげる親切だけでなく、見守ったり励ましたりする親切もあるということに気づき、みんなの前で発言し伝えていました。

文例

「埼玉県小学校教育課程指導・評価資料(道徳)」
平成29年3月 埼玉県教育委員会 44ページ

「埼玉県中学校教育課程指導・評価資料(道徳)」
平成30年3月 埼玉県教育委員会 35ページ

おわりに

- 信頼する先生からの評価が、子供にとって一番勇気づけ励まされる評価！
- 大切なことは、授業でいつもホームランを打つことではなく、授業という打席に毎週立ち続けること！
- 子供たちとの授業を楽しんでください！

【道徳科の目標】

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ※（ ）は中学校

多様で効果的な指導方法の積極的な導入が求められているからこそ、どのような展開にも共通して踏まえるべき特質を捉えることが大切である。以下の特質を踏まえた授業を計画的・発展的に行い、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養うことが求められている。 ※以下の説明は小学校に基づく

（1）道徳的諸価値を理解する

具体的には、価値理解、人間理解、他者理解を深める学習となっていること。

価値理解：内容項目を人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解する。

人間理解：道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解する。

他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提に理解する。

（2）自己を見つめる

具体的には、道徳的価値を自分との関わりで捉える活動（これまでの自分の経験、その時の考え方、感じ方と照らし合わせながらさらに考えを深める活動）が位置付いていること

このような学習を通して、自己理解を深める。

自己理解：人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりする。

（3）物事を多面的・多角的に考える

具体的には、児童が多様な考え方や感じ方に接することができるようにするために、児童が多様な価値観の存在を前提にして他者と対話したり協働したりする学習となっていること。

（4）自己の生き方についての考えを深める

児童が道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値観を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにする。

（5）道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳教育は道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度を養うことである。具体的には、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践できるような内面的資質を育てること。

道徳的判断力：様々な状況下において、人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。

道徳的心情：道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。

道徳の実践意欲と態度：道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性。